

# 2026年度事業計画

## 1. 学術的会合

(1) 年会, 秋季総合分科会 (総合講演, 企画特別講演, 特別講演, 一般講演)

「2026年度年会」 3月23日(月)～3月26日(木) 東京理科大学

「2026年度秋季総合分科会」 9月1日(火)～9月4日(金) 神戸大学

(2) 各支部, 各分科会主催による研究集会

(3) 第26回, 第27回「高木レクチャー」

(4) 第19回「日本数学会季期研究所」(MSJ-SI 2026)

## 2. 定期刊行物

(1) 欧文誌 「Journal of the Mathematical Society of Japan」

冊子体: B5判, 年4回刊行, 各回約330頁, 各回850部

電子体: <https://projecteuclid.org/journals/journal-of-the-mathematical-society-of-japan>

「Japanese Journal of Mathematics, third series」

冊子体: B5判, 年2回刊行, 各回約200頁, 各回350部

電子体: <https://www.springer.com/journal/11537>

(2) 邦文誌 「数学」

冊子体: B5判, 年4回刊行, 各回約112頁, 各回5,400部

電子体: <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/sugaku/-char/ja/>

「数学通信」

冊子体: B5判, 年4回刊行, 各回約100頁, 各回5,000部

電子体: 一部を日本数学会ホームページで公開

## 3. 不定期刊行物

「Advanced Studies in Pure Mathematics」

「MSJ Memoirs」「数学メモアール」

## 4. 顕彰

優れた数学研究, 数学関連支援事業および出版活動を顕彰・奨励

日本数学会賞春季賞, 同秋季賞, 同建部賢弘特別賞<sup>\*1</sup> および奨励賞, 日本数学会出版賞,  
日本数学会関孝和賞, JMSJ論文賞, 日本数学会代数学賞, 同幾何学賞, 同解析学賞,  
同応用数学賞, 同応用数学研究奨励賞

## 5. 研究奨励

(1) 「加藤敏夫フェロー<sup>\*2</sup>」

次世代を担う東南アジア在住の若手数学研究者を国内研究機関に受け入れ, 支援する。

(2) 「在外研究奨励フェロー<sup>\*1</sup>」

困難な状況のもと, 国外の研究機関で研究, または国外の研究者と共同研究を行う若手研究者を支援する。

## 6. 国際交流

### (1) 2026 年国際数学会議 (ICM2026)への参加

本会および国内の数学・数理科学の活動を広報するとともに、日本学術会議数理科学委員会 IMU 分科会との共催により「Japan Forum」を開催する。

### (2) 大韓数学会および台湾数学会との交流事業

2026 年度秋季総合分科会に台湾数学会代表団を招待し、大韓数学会年会に本会代表団を派遣する。

### (3) アフリカ数理科学研究所 (AIMS)との交流事業

AIMS の拠点に本会会員を講師として派遣し、約 3 週間の講義を実施する。

### (4) 外国機関に対する支援等

IMU CDC (IMU's Commission for Developing Countries), 日米数学研究所 (JAMI), Oberwolfach 研究所への援助金を拠出し、The International Council for Industrial and Applied Mathematics (ICIAM) の会員として会費を拠出する。(国際交流基金から拠出)

## 7. 社会連携

### (1) 「市民講演会」

2026 年度年会および 2026 年度秋季総合分科会において開催する。

### (2) 「数学・数理科学専攻若手研究者のための異分野・異業種研究交流会 2026<sup>\*3</sup>」

博士課程の学生を中心としたキャリアパス支援構築を目的として実施する。

### (3) 男女共同参画に関する活動

男女共同参画学協会連絡会の活動、および「女子中高生夏の学校」への協力等を行う。

## 8. その他の事業

### (1) 2030 年国際数学会議 (ICM2030) の招致

東京での開催を実現するため、ICM2030 招致委員会を中心に招致活動を行う。

### (2) 150 周年記念事業の実施準備

本会および日本物理学会の前身である東京数学会社創立 150 周年記念事業の 2027 年の実施に向けて、両学会の合同ワーキンググループを中心に検討および準備を進める。

### (3) MathSciNet のコンソーシアム JPNMATH の主宰

American Mathematical Society (AMS) が提供する「MathSciNet」を特別価格で利用できるようコンソーシアム「JPNMATH」を主宰する。

## 9. 管理・運営

### (1) 会費の改定

2026 年度前期分から正会員および終身会員の会費を改定する。学生のほか、経済的に厳しい状況にある若年層、および初等中等教育教員である正会員に対する会費減免制度を開始する。

### (2) 会員情報システムの開発

マイページ機能を有する新たな会員情報システムを開発し、会員による利用を開始する。

\*1 一般財団法人数理科学振興会との共同事業

\*2 東南アジア数学会の協力による事業

\*3 本会、日本応用数理学会および統計関連学会連合との共同開催